

『偶像礼拝をを避けなさい』 出エジプト記20章4～6節 2018.6.24 聖日礼拝説教より

『…神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることにはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。ですから、私の愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。』

Ⅱコリント人への手紙 10章13～14節

第一戒のテーマを『約束に生きる信仰者』とすれば、第二戒は「闘いに生きる信仰者」。知らず知らずに神から引き離す悪の力がある！

①偶像を避ける理由…偶像は人の心を虜にして支配する。イスラエルの民は、荒野の試練の中で偶像礼拝に堕ちた(出エジプト32章)。不満や眩きは誘惑への入口！彼らの失敗は私たちへの戒めで、私たちが悪をむさぼることのないため(Ⅰコリント 10:5～7)。主を信じて罪の奴隷から救われた後、様々な患難の中で人は信仰を見失い、神以外のものに誘惑されて罠に陥る！偶像と関わることは、悪霊と交わること(Ⅰコリント 10:20)。「悪魔に機会を与えないようにしなさい(エペソ 4:26～27)」！

②偶像崇拜の正体…現代の偶像の中心は自己崇拜！十戒に「欲しがらな」とあるが、私たちは自分の願望が「神」になる。「何のために？」を問わず、「絶対欲しい」と手に入れることを目的にする！そして、成功と繁栄を夢見る！全ては神からのものなのに、人は結局、自分の思うようにして、神ではなく、自分を喜ばせたい！しかし「神から離れては、誰も楽しみ、喜べない(伝道 2:23)」。どんな人生であっても、神の赦しと憐れみのまなざしの前に歩み、隣人を愛し助けて生きる人の心には、自己崇拜の入り込む余地はない！

③唯一の神の御前に生きる！…『偶像崇拜とは』、神を信じつつも、「それだけでは足りない。あれも、これも必要」と、神以外に、神と何かを並べて頼りとすること。そうこうするうちに、少しずつ心と生活の中に世の支配が忍び寄り、小さな失敗と妥協を積み重ね、気がつくと、神様の御心から大きくズレ、神の恵みから遠く離されて、「何のための人生だったっけ？神様の愛がわからなくなった…」と、完全に悪の虜にされてしまう。

★あなたは、神様ご自身以上に、あるいは、神の救いと並べて頼みとするものがあるだろうか？この方は、この世のどんな試練の中でも耐えられるように、必ず逃れの道を備えてくださる(Ⅰコリント 10:13～14)！「何もかも失っても大丈夫！あなたが共におられますから！」と言える者に、悪しき者が近づく余地はない。唯一の慰めの神の、愛の眼差しの御前に生きたい！